

【短報】下北半島でヒメドロムシの興味深い生態を観察

通常、流水中に生息するスネアカヒメドロムシ *Optioservus variabilis* Nomura, 1958 とツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura, 1958 を止水域で採集したので報告する（以下、ヒメドロムシを省略）。

山間部の沢沿いの林道で、わだちに溜まった数ヶ所の浅い水溜りで確認した（図1-2）。2種とも隣接する沢に普通に生息しており、水溜りにいたのが恒常的な生態なのかは不明である。水溜りにいた個体は、どの個体も体表面が非常に綺麗であったが、沢にいた個体は、たいてい体表面に垢状のゴミが付着していた。もしかしたら水溜りにいたのは若い個体なのかもしれない。

また、青森県のヒメドロムシ科の記録の有無は調べていないが、少なくとも Kamite (2015) に青森県のスネアカの記録はない。最新の文献で同定し



図1. 林道の水溜り。

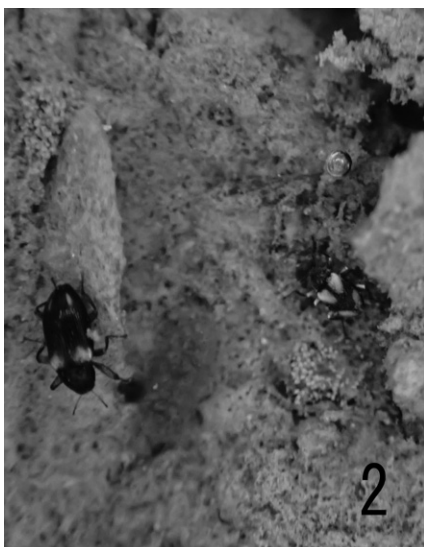


図2. 生態写真（左：スネアカ、右：ヒメツヤ）。

た例ということで、宇曽利湖周辺の沢で採集したデータも収録しておく。スネアカの同定と和名は、Kamite (2015) および上手 (2015) に従った。

ツヤは、吉富ほか (1999) や緒方・中島 (2006) で言及されているように、ヨツモンヒメドロムシ *Optioservus rugulosus* Nomura, 1958 との関係が未解決の課題として残っているようであるが、ツヤのタイプ産地が山形県であることから、今回採集した種はツヤであると判断した。西日本産と比較すると、すべての個体で、背面のシワが目立たなくて、地色は金属味のない黒色をしていた。斑紋もやや異なるようである。

採集・同定・保管はすべて筆者である。

採集データ：

スネアカヒメドロムシ *Optioservus variabilis* Nomura, 1958

6exs., 2015. VIII. 4, 東通村朝比奈平 沢沿いの林道水溜り, alt. 130 m ; 6exs., 2015. IX. 3, むつ市宇曽利湖 湖岸の流入沢, alt. 210 m ; 5exs., 3 幼虫, 2015. X. 6, むつ市障子山 (しょうじやま) 熊沢上流, alt. 410 m ; 3exs., 2015. X. 6, むつ市小尽山 (こづくしやま) 熊沢中流, alt. 215 m ; 27exs., 2015. X. 6, むつ市荒川岳 大荒川上流, alt. 375 m.

ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura, 1958

14exs., 2015. VIII. 4, 東通村朝比奈平 沢沿いの林道水溜り, alt. 130 m.

引用文献

- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.
 緒方健・中島淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.
 Kamite, Y., 2015. Revision of the genus *Optioservus* Sanderson, 1953, part 2: The *O. maculatus* species group (Coleoptera: Elmidae). Koleopterologische Rundschau, 85: 197-238.
 上手雄貴, 2015. 日本産 *Optioservus maculatus* 種群の和名について. さやばねニューシリーズ, (20): 49.

(稲畑憲昭 600-8238 京都市下京区御方紺屋町 3-206)